ふるさとのお宝再発見 ⑥④

市民新聞グループの土曜特集
週刊 見る

この特集をさらにご希望の方は、新聞販売店かお近くのコンビニでお求め下さい

城向山瑠璃院照光寺 ①

3流派による多彩な建築・珠玉の彫刻

岡谷市

照光寺には県宝に指定されている「胎蔵界大日如来坐像」、市指定文化財「木造坐像興教大師」をはじめとする多数の仏像、市内唯一とされる高遠・守屋貞治の石仏地蔵尊、1793（寛政5）年建立の大隅流初代伊藤（柴宮）長左衛門矩重による本堂、1826（文政9）年初代藤森広八包近による薬師堂、1846（弘化3）年建立の立川2代和四郎富昌による三門、1934（昭和9）年大隅流石田房茂による蚕霊供養塔、1903（明治36）年建築、1956（昭和31）年に石田房茂が増築した開山堂・位牌堂、2007（平成19）年に大隅流小松金治棟梁、彫刻は現代の名工・中牧一展氏による龍像の水屋等々たくさんの文化財・歴史的建造物を見ることができます。

これらを建物と建築彫刻を主として2回にわたって紹介したいと考えます。

さて図1は大隅流の大まかな系統図ですが、照光寺では3人の棟梁が腕をふるっていることがわかります。大隅流は現在でも脈々と歴史をつくり彩りを重ねています。

図2は藤森家の系統図です。初代藤森広八は高部村に1770（明和7）年に生まれ、原五左衛門、立川冨棟に学び独自の藤森流ともいえる建築流派を形成しています。原や白鳥弥四郎と共に上社四脚門と布橋を1819（文政2）年に、翌年には松本市兎川寺本堂、碩水寺各殿を造っています。藤森広八は襲名されて3代まで続いています。また藤森家ではさかのぼると諏訪市湖南の「善光寺本堂」を1747（延享4）年に藤森次郎右衛門藤原包好により作事されているそうで、代々大工棟梁の家柄であったかと思われます。初代広八は99歳と長生きであったので、2代広八との共作もあるかと考えられます。

立川流の系統図はここでは示しませんが、3流派による歴史的な建造物が一つの寺の内に建てられているのは非常に珍しいと思われます。残念なのは冨昌得意の彫刻が三門に見えないことでしょうか。

2007（平成19）年には庫裡等を壊し本坊、学問所、奥書院、裏堂を増築、大改修事業を完成しています。

（岡谷市文化財保護審議会委員、諏訪市文化財専門審議会委員で、諏訪総合設計代表の宮坂正博さんに執筆していただきました）

次回は守矢史料館周辺の文化財（茅野市）を紹介します。

【本堂】間口9間、奥行き6間4尺。銅板葺き入母屋造、平入りで正面に唐破風。元は茅葺きで寄せ棟だった。北を除く3方に縁を廻している。殿様座敷、御家老座敷がある。唐破風向拝の海老虹梁（えびこうりょう）は簡素だが正面の欄間は唐獅子牡丹3面、仏式彫刻6面。向拝正面虹梁の上には唐獅子牡丹と龍、兎の毛通しは鳳凰の彫刻である、虹梁本体の左右には波に千鳥。手挟みに松と鷹の籠彫り、木鼻は象と獅子、虹梁下の木鼻は波と亀の籠彫り。伊藤長左衛門の最高傑作である

【蚕霊供養塔】二重の塔、方6尺7寸（2・03㍍）。基壇高95㌢、基壇上から露盤7・198㍍、双輪3・948㍍。（文献では高さ37尺＝11・212㍍＝とあるが、基壇上からの高さが7・198㍍＋3・948㍍＝11・146㍍でおおむね合致する）。地面からは12・096㍍。現在は特殊緑青銅板葺きであるが、建設時は銅板葺きである。彫刻は伊藤安弥、石工は山岸卓三

【三門】間口1間、奥行き1間（こういう場合の1間とは長さではなく柱間が1スパンと言う意味である）。銅板葺き2方垂木

【水屋】切妻の妻入りの両側を唐破風とし左右にも唐破風をつけ、4面に唐破風の見える重厚な建築である。水盤は1932（昭和7）年の山岸卓三作

【薬師堂】間口3間、奥行き3間、入母屋流れ造り瓦葺き

【開山堂・位牌堂】1階は土蔵造りか、2階の開山堂は6角の宝塔で1階の白壁と相まって全体が異彩を放っている

【守屋貞治の地蔵尊】1827（文政10）年

（図1）大隅流系統図

総領
伊藤儀左衛門光禄
1738---1813

4男
伊藤長左衛門矩重（柴宮）（村田）1747---1800
弟子
矢崎善司昭方 1772---1841
矢崎善司矩慶 1808---1845
矢崎善司照恭 1832---1882
矢崎善司貞之 1859---1925
矢崎房吉房之進昭房 石田（養子）1820---1890
石田国次郎 1859---1937
石田房茂 1890---1984
石田文夫
（株）石田組
伊藤安弥
小松金治
（有）富士小松工務店

（図2）藤森広八系統図

藤森次郎右衛門包好 1747湖南善光寺本堂
初代広八
藤森広八包近 1770---1868
2代広八
藤森藤五郎政因 次郎左衛門包道 1802---1875
3代広八
藤森音次郎宗近 治郎左衛門棟因 1845---1928